

一般社団法人日本光学会 2016 年度第 1 回委員総会議事録

期 日： 2016 年 3 月 22 日(火)

場 所： ハイライフプラザいたばし

出席者： 黒田会長，ほか理事・運営委員 31 名

議 事：

1. 黒田会長挨拶，理事・委員紹介

- ・黒田会長より開会挨拶があり，続いて理事・運営委員の紹介があった。

2. 学会設立・運営に関する経過報告

2-1. 設立の経緯

- ・応用物理学会分科会日本光学会における将来問題検討委員会の発足から，一般社団法人日本光学会の学会活動開始までの経緯が報告された。

2-2. 会員数

- ・2015 年度の会員数（一般会員 723 名，学生会員 114 名，特別会員 A 60 口，特別会員 B 9 口，特別会員 C 22 口，賛助会員 48 口）について報告された。

2-3. 運営形態・組織，委員会，研究グループについて

- ・学会を運営する組織構成について，下記の通り説明があった。
- ・分科会時代に存在した幹事会は廃止され，分科会における将来問題検討委員会の委員を中心に組織された理事会と運営委員会により運営されている。新理事の推薦，定款の変更等，重要な決定事項は理事会によって検討のうえ決定されるが，理事会の開催には法的な煩雑さが伴うため，一般運営上の会議は理事による総務委員会として開催し，議論，運営を行っている。基本的な運営組織は，理事会，監事，総務委員会，委員会，支部であり，さらに個別の実働部隊として，「光学」編集委員会，「Optical Review」編集委員会，「Optical Review」出版委員会，光科学及び光技術調査委員会（関東・関西），OPJ 実行委員会，光学シンポジウム実行委員会，冬期講習会実行委員会，事務局がある。ただし事務局機能については，主たる対応窓口は学術新報社，会員情報管理および会費請求はオプトロニクス社，OPJ の運営はアドスリーに分散委託している。
- ・研究グループについては，13 の研究グループが活動していることが報告された。

2-4. 国際交流

- ・MOU (Memorandum of Understanding) を OSA, SPIE, EOS, OSK, COS, TPS と交換し，CSOE と協

議中であることが報告された。また，OPJ 2015 において日本光学会設立記念として SPIE とのジョイントシンポジウムを開催したこと，その他多数の国際会議を主催・共催・協賛したことが報告された。

2-5. 財務・会計

- ・2015 年度（初年度）の財務・会計について報告された。
- ・運営を軌道に乗せるため，理事・運営委員の交通費，事務経費，出版経費など多くの経費を大幅に節減したことが報告された。
- ・法人設立時期の関係でこれまでは会計年度を 9 月～8 月としていたが，2017 年度からは 1 月～12 月に変更する予定であることが報告された。

3. 2016 年度事業計画に関する報告

3-1. 講演会・講習会

- ・2016 年度に開催を予定している国内会議，国際会議，講習会等について説明がなされた。
- ・これまでは各事業が独立して企画・運営を行っていたが，事業間のテーマについて連携を取ることを検討している旨，報告があった。
- ・冬期講習会を応用物理学会と共催で行い，応用物理学会が一部費用を負担したことが報告された。

3-2. 出版事業

- ・会誌「光学」と欧文誌「Optical Review」の出版に関する現状と事業内容について報告された。
- ・欧文誌「Optical Review」は 2015 年より電子出版とし，冊子体の出版を廃止したことが報告された。
- ・2014 年以前に出版されたバックナンバーに関しては，「光学」は応用物理学会フォトンクス分科会の Web ページにリンクを貼って無料公開していること，「Optical Review」は日本光学会会員に Association Code を配布して Springer の Web ページで公開していることが報告された。

3-3. 各賞

- ・各賞に関する変更点などについて報告された。

3-4. 板橋区との連携

- ・板橋区との連携に関し，昨年度の実績と今年度の計画案について報告と説明がなされた。

4. 課題と将来展望

4-1. 事務局への配慮

- ・事務局の状況について報告と説明がなされた。運営予算がまだ潤沢でないため，現在のところ専従の事務職

員は雇用せず、上述のように機能を分散して外部委託している。そのため運営委員の要請等に十分に対応できない場合があり、各運営委員は可能な限り自身で必要な作業にあたっていただきたい旨依頼がなされた。

4-2. 財務安定化

- ・財務の安定化に向けて、会員数の増加、未納会費の徴収、事業の黒字化、広告収入の増加を図ることを検討していることが報告された。

4-3. 会員サービスの拡充

- ・会員サービスの拡充として、会費の自動引き落とし対応、会員情報登録・更新用マイページの開設、各事業参加費のクレジットカード払い対応を予定していることが報告された。

4-4. 会員増強

- ・会員増強を図るために、会員のデータ分析、会員特典の明確化と拡充、勧誘活動の活発化を検討していることが報告された。

4-5. 国内学会との連携

- ・レーザー学会、日本分光学会など、国内の光関係の学会との連携活動を検討していることが報告された。
- ・学術振興会の光エレクトロニクス第130委員会では3月8日を光の日と定めたシンポジウムを開いており、これに参画を検討していることが報告された。
- ・ICO 2017に協力する予定であることが報告された。

4-6. 海外の光学会との連携

- ・MOUの交換を進めていくこと、TPS(台湾光電学会)から新たに2名の招待講演者をOPJ 2016に招き、本会からも2名をTPSの年次大会に派遣する予定であること、OPJ 2016ではOSA 100周年記念イベントを開催することが報告された。

5. その他

- ・冬期講習会の日程を従来の2日間から1日に変更する可能性について、議論がなされた。
- ・委員総会終了後、委員会ごとに担当業務内容に関する打ち合わせがなされた。

第17回情報フォトニクス研究グループ研究会(秋合宿)

情報フォトニクス研究グループでは、下記の日程で秋合宿を行います。企画テーマの招待講演、博士課程学生による若手講演、ポスターセッションやグループ討論が行われ、本年度は企業見学会も併せて予定しています。光をめぐる科学技術の中で、イメージング分野の進歩が目覚ましい発展を遂げています。今年の企画テーマは「地球を(不)可視化する一宇宙、海底、過去、透明化—未踏領域

に挑む最先端の光技術」です。「宇宙」を舞台にしたブラックホールの「またたき」や、光の届かない「海底」、遺跡や名画に残された数百年前の「過去」の情報を光や電磁波を用いて解析する技術、またメタマテリアルによって光を「透明化」する技術など、日常生活から離れた未踏領域の可視化・不可視化に関する最先端の研究を中心に、自由闊達な議論の場を提供することを目的とします。

期 日：2016年9月5日(月)～7日(水)

場 所：プラムイン城陽(京都府城陽市寺田大川原24-4)

おもなプログラム：〔9月5日(月)〕12:30 京都駅集合→島津製作所本社・三条工場見学→オープニングトーク→ショートプレゼンテーション→(夕食)→ポスターセッション→グループディスカッション。〔9月6日(火)〕若手女性研究者講演→(昼食)→メインセッション→(夕食)→ポスターセッション→グループディスカッション。〔9月7日(水)〕グループディスカッション発表→クロージングトーク→集合写真撮影→(昼食)→解散。

定 員：先着50名

参加費+宿泊費(2泊6食込み)：一般28,000円、学生18,000円

参加申込締切：8月5日(金)

予稿・スライド締切日：8月19日(金)17時

参加申込方法：涌波(k.wakunami@nict.go.jp)まで、以下の書式でご連絡ください。〔学生参加の方〕件名：IPG秋合宿学生参加、本文：1.氏名、2.所属、3.ポスターの題目、4.著者、5.著者所属、6.連絡先。〔一般参加の方〕件名：IPG秋合宿一般参加、本文：1.氏名、2.所属、3.連絡先。

問合せ先：情報通信研究機構 涌波光喜

E-mail k.wakunami@nict.go.jp

URL <http://www.i-photonics.jp/meetings.html#20160905IPGA>

第34回レーザーセンシングシンポジウム

本年度も第34回レーザーセンシングシンポジウムを開催する運びとなりました。本シンポジウムはレーザー・リモートセンシング技術と地球環境科学への応用に関して科学者、技術者が一堂に会し、討論・意見交換することを目的としております。関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

期 日：2016年9月8日(木)、9日(金)

場 所：野沢温泉スパアリーナコンベンションホール(長野県下高井郡野沢温泉村大字豊郷6748)

主 催： レーザ・レーダ研究会
共催・協賛： 日本光学会, 環境科学会, 日本気象学会ほか
問い合わせ先： 第34回レーザセンシングシンポジウム実
行委員会
信州大学学術研究院(工学) 齊藤保典
電話 026-269-5457 Fax 026-269-5495
E-mail lss-exe@laser-sensing.jp
URL <http://laser-sensing.jp/lss34/>

**ANS 2016 (第5回アジア近赤外シンポジウム兼第32回
近赤外フォーラム)**

期 日： 2016年11月30日(水)~12月3日(土)
場 所： 鹿児島大学および城山観光ホテル(鹿児島県鹿
児島市)
主 催： 近赤外研究会
共 催： 日本分光学会近赤外分光部会ほか
後 援： 日本光学会
日 程： 11月30日：ショートコース(講習会), 12月1,
2日：本会議(口頭講演, ポスター講演, 企業プレゼ
ン, 機器展示会など), 12月1日には懇親会, 12月3
日はスタディーツアー(鹿児島県内)を予定
使用言語： 英語
事前参加登録締切： 8月31日(水)
参加費(事前登録・一般)： 本会議40,000円(昼食・懇親
会費を含む), ショートコース3,000円,

問い合わせ先： 近赤外研究会事務局
電話 029-838-8023 Fax 029-838-7996
E-mail office@jcnirs.org
URL <http://ans2016.org/index.html>

**第140回微小光学研究会「微小光学から見る『光と電
波の境界領域』」**

光と電波の境界領域は, まだまだ未開拓な領域である.
発振器(光源)に代表されるデバイス技術, 電磁界の伝搬
を制御する技術など研究開発が活発化している. また, 無
線通信や分光, 可視光では見えない物の探索や観測など興
味深い応用が広がる. 本研究会では, この光と電波の境界
領域におけるデバイス技術, 応用技術について, 現状と解
決すべき課題や技術の進展を, 微小光学の視点で捉えて知
見を広げる.

期 日： 2016年7月19日(火)
場 所： 日本女子大学新泉山館大会議室(〒112-9691 東
京都文京区目白台2-8-1) [http://www.jwu.ac.jp/unv/
access.html](http://www.jwu.ac.jp/unv/access.html) JR山手線目白駅下車徒歩約15分, 東京
メトロ副都心線雑司が谷駅下車徒歩約8分, 東京メト
ロ有楽町線護国寺駅下車徒歩約10分.
主 催： 応用物理学会微小光学研究会
問合せ先： リコー 坂井 篤
E-mail atsushi.as.sakai@nts.ricoh.co.jp
URL <http://www.comemoc.com/>

日本光学会 news の掲載申込先：

〒192-8512 東京都八王子市久保山町2-3 オリンパス(株) 技術開発部門光学システム開発本部
天内隆裕 電話 042-691-7194 Fax 042-691-7573 E-mail t_amanai@ot.olympus.co.jp
なお, 掲載申込は原則として発行日(10日)から2か月前の15日まで, 開催日が1~10日の場合
は, 開催日の3か月前の15日までをお願いします.
掲載にあたっては, 「日本光学会 news」の掲載基準を日本光学会ホームページでご確認ください.

一般社団法人日本光学会 賛助会員

2016年6月10日現在の本学会賛助会員は下記のとおりです。掲載させていただくとともに、本会事業に対するご賛助に厚く感謝の意を表します。

(株)アルゴ	(株)東芝
ウシオ電機(株)	(株)東精エンジニアリング
オプトシリウス(株)	(株)トプコン
(株)オプトロニクス	(株)ナック イメージテクノロジー
オリンパス(株)	(株)ニコン
キヤノン(株)	(株)ニデック
(株)清原光学	日本板硝子(株)
(株)光学技研	(一社)日本オプトメカトロニクス協会
興和(株)	Phase One Japan(株)
(株)五藤光学研究所	富士フイルム(株)
コニカミノルタ(株)	古野電気(株)
(株)シグマ	(株)溝尻光学工業所
シチズンホールディングス(株)	三菱レイヨン(株)
(株)昭和オプトロニクス	ユニオプト(株)
ソーラボジャパン(株)	(株)リコー
(株)タムロン	ルーメスソフト(株)
中央精機(株)	

以上 35社 49口 (五十音順)

「応用物理」第85巻第7号(2016年7月号) 予定目次

解 説

マイクロ波放電式電子サイクロトロン共鳴型イオン源の物理
..... 國中 均
走査型非線形誘電率顕微鏡(SNDM)による半導体微細構造
の高分解能評価 長 康雄
ナノワイヤ量子ドットレーザーの進展 荒川泰彦, 館林 潤
最近の展望
超高感度CMOSイメージセンサの開発 川人祥二
研究紹介
ESR/EDMRによる窒化したSiC-MOS界面の構造評価
..... 梅田享英

超高压を利用した高品質大型単結晶ダイヤモンド合成
..... 角谷 均
レーザー光を利用した気相からの高速結晶成長 伊藤暁彦
フォトリソグラフィによるフォトニック結晶導波路における共伝搬・逆伝搬スロー
ライト系 近藤圭祐, 馬場俊彦
基礎講座
キャリア濃度・移動度測定のコツ 松浦秀治
Inside Out
多様性と収束の米国研究開発事情 池川純夫
Science As Art
三日月の七色変化 松谷晃宏
